

2008年2月6日

アマチュア・野球クラブチーム長期振興計画（案）
【クラブ野球リーグ構築5ヵ年計画】

JABA事業委員会

1. 提唱

現在275チームのクラブチームが加盟登録している。ここ数年急激に増加している一方で現行の公式戦は都市対抗をはじめトーナメント方式が中心であり、従来とほとんど変わっていない。また、トーナメントでは弱いチームほど試合数は少なくなることから、近年急増している地域ほど公式戦の試合数増を望む意見が強く、特にクラブチームが参加する公式大会方式について抜本的かつ組織的な再構築が必要であると考えられる。

しかしながら、歴史と伝統ある地域や全くクラブチームがない状態から一気に急増した地域、そして、長く企業チーム中心の運営がなされてきた地域など各都道府県連盟における運営事情が多岐に渡っており、同時進行は困難である。そこで、すべての地域で共有できる理念に基づき、それぞれの地域事情に即した形で新しい制度の構築を進めていくこととし、「クラブ野球リーグ構築5ヵ年計画」を提唱する。

2. クラブ野球リーグ構築の理念

- (1) 連盟・クラブチームともクラブ野球の新しい歴史と伝統づくりを目指して、前向きに取り組む。
- (2) 複数のクラブチームが共同で運営する。
- (3) リーグ運営に必要な労力は各クラブチームが提供する。
- (4) 地域社会に貢献する。
- (5) 次の時代を担う若者にクラブ野球の文化を継承する。

3. 目標

クラブチームは近年の急増によりほぼ全国に分布している。この分布状況は、各地域で主にリーグ戦を行っている大学野球に酷似しており、その運営から学ぶところは多い。最初の5年間は基礎となる地域リーグをスタートさせ、10年後を目処に各地区に存在するそれぞれの大学野球リーグ並みの運営を目指す。関係者は英知を結集するものとする。

4. グループ分け

(1) クラブ野球リーグの組織

クラブ野球リーグ運営のための基礎となるグループ分けは、各地区連盟及び各都道府県連盟とも協力し日本野球連盟が主導で行う。原則として都道府県の枠は超えない。ただし、チーム数が少ない場合は例外として隣接府県とする。

(2) 各グループのチーム数

チーム数が特に多く、エリアも広い岩手や福島、そして北海道については、各地域の現状に即してスタートを切り易いグループ分けを行う。

(3) 各グループでの協議

各グループによる協議をスタートさせ、組織化を目指す。

5. 導入計画

(1) 2008年度

- ① 各グループ別に「クラブ野球リーグ構築の理念」に基づく協議を始める。
- ② 各グループとも2008年10月末までに「クラブ野球リーグ構築5ヵ年計画」に対する意見を集約し、日本野球連盟へ提出する。
- ③ 事業委員会として「クラブ野球リーグ構築5ヵ年計画」の最終案をまとめる。

(2) 2009～2011年度

- ① 各グループともクラブ野球の公式戦運営の基礎となる運営組織作りを行う。
- ② 将来へ向けた理想のリーグ戦方式について協議し、導入計画を作成する。
- ③ 課題を明確にし、一つ一つの解決を目指す。
- ④ 毎年度ごとに各リーグの意見を集約し、日本野球連盟へ提出する。
- ⑤ 日本野球連盟は集約された意見を元に支援策を検討する。

(3) 2012～2013年度

- ① 現行のローカル大会との兼ね合いを調整しながら新リーグ戦をスタートさせる。
- ② 将来的な一本化も含めて検討する。

6. 各グループ毎の検討事項

(1) 運営組織作り…規約を制定する。

グループ内のクラブチームが話し合いのテーブルに着き、理念を共有し、新しい歴史と伝統作りをスタートする。お互いの約束事を一つずつルール化する。

(2) リーグ運営に取り組む

同じ地域での練習試合は例外なく頻繁に行われている。まずは、その年度が始まる前にグループ内で星取表を作成する。この星取表がリーグ構築の基礎になる。

① リーグのルールを作る。

試合数、ポイント制度、順位決定方法など

② 課題の克服

相互の協力の下一つ一つ困難を克服する。

- ・ 球場の手配
- ・ 審判員、公式記録員の確保、育成（他チームからの派遣）
- ・ その他人材の確保
- ・ 広報活動

③ 情報収集、情報交換をする。

- ・ 大学野球リーグ運営を学ぶ。
- ・ 全国のクラブリーグの運営を学ぶ。（情報交換）

(3) 都市対抗、クラブ選手権、日本選手権、各JABA大会との連動

リーグ戦の価値観を高めるため、将来的に全国大会への連動を検討する。